No.514
2017.7.20

KINZOKU DANCHI NEWS Since1974

金属団地ニュース

岐阜県金属工業団地協同組合

6月度月例会開催

6月19日（月）の12時より組合研修センター3階の集会室において6月度月例会が開催されました。昨今の中小企業、特に製造業に至っては新規学卒者の採用難が続いております。そこで今回は、『大手の落ちこぼれじゃない！中小企業が本当に欲しい新卒人材を採用する方法』をテーマに、講師に（株）ナイジックアイサポート 営業企画部 課長 加藤征男氏と（有）ポテンシャライズ 代表 藤浦隆雅氏をお迎えし、お話しいただきました。講演前半では、加藤氏にワークプレイスメント（有給インターンシップ）の活用についてお話しいただきました。学生は大手や知名度の高い企業を選ぶ傾向があり、大学卒の3年以内離職率は32.4％にもなるそうです。中小企業の魅力を学生に知ってもらうため、就職のミスマッチを避けるためには、ワークプレイスメントは非常に有効な方法であるとともに、どうすれば企業が求める学生を採用することができるのかをご説明いただきました。また後半には、加藤氏と藤浦氏が対談方式によって実際の成功事例を紹介されました。

ワークプレイスメントを受け入れるに当たっては、大企業は人事と現場の連携が取りづらい傾向にあるが、中小企業は社内一丸となって学生を受け入れる体制が作り易いそうです。大企業と同じことをやるのではなく、中小企業の特色やメリットを生かす求人手段を考えていくことの必要性を強く感じる講演会でした。

健康診断と献血が行われました

5月24日～ 25日、5月29日～ 6月6日の平日11日間に亘って、組合研修センター 3階集会室と駐車場にて、団地内企業経営者及び従業員を対象とした一般健康診断が行われました。また、6月6日の午後には、同駐車場にて献血が行われました。献血については、献血受付20名、内献血者数18名でした。ご協力いただいた方々、ありがとうございました。毎年、健康診断の期間に合わせて献血が行われますが、年々ご協力いただける方が少なくなっております。今回も事前の案内配布、当日には献血へのご協力をお願いする放送を流しながら車が団地内を走りましたが、前年よりも人数が減りました。協力したい気持ちがあっても、仕事もあり中々協力できないという方も多くみえると思います。そんな方は、休日街中で献血車を見かけた時にぜひご協力をお願いします。

安全週間準備パトロールの実施

6月21日（水）、大雨の降る中、安全週間準備パトロールが行われました。今回指摘を受けた箇所を7月の本週間までに改善します。

青年中央会総会に参加

6月14日（水）、ぎふ長良川温泉ホテルパークにて、岐阜県中小企業青年中央会の第43回通常総会が行われ、金属団地青年部からは2名が参加しました。議案は全て原案通り承認されました。11月10日（金）に開催される全国講習会の場所も岐阜都ホテルに決定いたしました。青年部メンバーは全員参加できるよう、各自スケジュール調整をお願いします。

青年部世代間交流会開催

6月21日（水）に鵜匠の家すぎ山にて青年部世代間交流会が開催されました。この青年部世代間交流会というのは、現在の青年部メンバーと、主に組合の元代表者など75歳以上の方々との世代を超えた交流を図るという趣旨でした。柳原青年部会長の開会の挨拶にもありましたように、青年部事業としては初の試みであり、金属団地で創業されてからのお話など貴重な体験談を聞かさせていただきました。組合事業の中でお会いすることがありましても、ゆっくりお話をさせて頂くことがなかなか出来ないため、大変有意義な会となりました。

しかし、ご参加いただいた方からは、「もう少しじっくり話をさせてほしかった」「雰囲気が和やかすぎたのでは」などといったご意見も頂戴しました。青年部としては、今回をきっかけとして今後さらに突っ込んだお話ができる機会を作っていきたいと思っています。ご指摘のあった開始時間も含め、次回の参考にさせていただきます。

お忙しいところご参加していただきました方々には大変感謝申し上げます。今後とも青年部一同へのご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

指導者　～体罰とスポーツ～

『今の自分があるのは学生時代の体罰のおかげ』

体育会系の人間で学生時代の体罰や先輩からのしごき、いじめ、説教などを今でも武勇伝?!　として語る者は少なくない。何を隠そう、そういう自分もそうなのだから。思い出話のように「辛い酷い話」、そして「それを乗り越えた自分」。今の自分（人間）を形成させてくれたのは、学生時代のそんな苦難を乗り越えたから。当時は辛くて嫌だった体罰、いじめに説教。顔や腹を殴られて痛かった記憶も、時間という年月に痛みを忘れ、いつの間にか自分自身でそれが美談になっている。

日本ではスポーツを「修練」「教育」「体力づくり」「人間形成」「集団行動」などと捉える方が多く、特に指導者、先生の中でもこのような考えを持っている方がまだまだ多いです。でもこれは、日本だけの日本人特有の考え方で、欧米諸国ではスポーツは「遊び」。楽しいからサッカーや野球、スポーツを「楽しみ」ます。しかし日本の場合、特に高校生のスポーツは「楽しそう」には思えません。極端に言うと「強くなるには、勝つためには、スポーツは楽しむものではない！」「スポーツは修練と忍耐そして教育だ！」と言ったほうがなんとなくしっくりきます。「遊び」が前提のスポーツを、日本人は精神修養、教育として捉えてしまいました。それは明治以来の富国強兵、殖産興業の国策を執っていた日本では、遊び戯れるという意味のスポーツが公には肯定されず、国民体育としてスポーツが認識されるようになったのが原因です。スポーツは相手とルール（平等）の中で競争、競い合うことが一番楽しい（遊び）。ゲーム中いろんな場面で必ず勝ち負けが発生し、圧倒的にほぼ全員が「負け」を経験します。

『勝つことより負けることの方が断然多い。しかし勝つことより負けることの方が学び得るものは多い。』　これが前述した精神修養、教育であり、それは目的ではなく後から付いてくるもの。あくまでスポーツの目的は「楽しさ」であり、遊びなのです。

先月、埼玉県越生町の私立高校でサッカー部のコーチが部員（生徒）の顔などを複数回たたいたりする動画がインターネット上に投稿されました。体罰のあったサッカー部はインターハイ出場経験もある強豪校。高校は動画を確認するなどした結果、体罰があったとしてそのコーチを解雇しました。動画には、高校のグラウンドで30代の男性コーチが、およそ20人の部員が見守る中、複数回にわたって1人の部員の顔をたたいたり、胸元を小突いたりする様子が写っており、動画を確認したうえでコーチから事情を聞いたところ、部活動の最中に体罰をしたことを認めました。コーチは『生徒にやる気が感じられなかったのでやってしまった。行き過ぎた指導であり、あってはならない行動をしてしまった。』と説明。これはコーチがうまく指導できない苛立ちを生徒にただぶつけているだけで、殴ったりせず、しっかりした指導で強いチームを作っている監督、コーチは他にもたくさんいます。自分の指導力のなさに生徒に手をあげてしまうのは自分の弱さ。体罰は指導者の勉強不足による一番安易な指導方法で、チームや選手は本当の意味では決して強くならないと思う。

5月末にも、大阪府堺市の公立高校で56歳の男性教諭が、顧問を務めるソフトテニス部の女子生徒に対し全裸になるよう強要したという事件が起きました。普通の感覚なら『嫌です！』で済む話。でも、そうならないのが、部活動の指導者と部員の関係性。好きなスポーツを人質に取られている状態で、逆らうと試合に出してもらえなくなる恐怖。練習で厳しい体罰を受けたとしても、その後やさしい言葉を掛けられれば、「先生は自分のことを考えて…」と思ってしまいがちな年齢と、それを利用した単純な人身掌握術。入部した時から先輩たちが体罰を受けている姿を見続けることによる、非日常が

日常化し、それがごくごく当たり前のことだとの思い込み。過去の退部者に対する「負け犬」「逃亡者」等の誹謗中傷。とても「嫌なら辞めればいいのに？」で済む話ではない所まで生徒は追い込まれています。だから、部活動における体罰については「本人が納得していれば」なんてことは全く通用しません。大人が気づき手を差し延べ、日常化した非日常を周りや生徒に気づかせ変えてあげることが大切だと考えます。

私自身、高校進学はサッカーの特待生としてスポーツの学校に入学しました。学校自体がスポーツ（体育会系）の学校でしたので、生徒、先生方にも先輩後輩の序列があるような学校でした。（所属している競技での序列もありました。）もちろん、監督（先生）、先輩からの体罰は当たり前という世代です。しかし、だからと言って、「スポーツには」「強くなるには」体罰が当たり前だとは一切思いませんでしたし、今でも思えません。逆に体罰を受けて、「痛い・苦しい・辛い」思いをしただけで、競技技術は全く向上しませんでした。（我慢強くはなったかもしれませんが。）

よく体罰は愛情だと言う人がいますが、私は殴られて愛情だと感じることはなかったです。

精神的に成長した？体罰でそんな経験は必要ありません。体罰とは指導者としての能力が劣っている人間の愚かな行為です。同じ事を同じ相手に対し、きちんとした説明と対応で指導している指導者がいる中でそれが出来る能力がない人間が自らの無能を補う為に用いているのが体罰です。今回体罰を与えたコーチは高校のＯＢであり、元プロサッカー選手（海外でプレイした経験もある）。サッカーの実力はあるコーチなのでしょうが、きっと、そのコーチも自分が同じように体罰を受けた経験があるのでしょう。「自分の時代がそうだったから」という負の連鎖が、断ち切られることを願ってやみません。

元サッカー日本代表中田英寿の中学時代のエピソードに次のようなものがあります。試合に負けた生徒たちにコーチが罰として「50本ダッシュ」を命じました。他の生徒たちは嫌々ながらも当然のように罰を受け走った。しかし、中2のヒデだけはベンチの脇に立って走ろうとしない。怒ったコーチは『どうして走らない？』と語気を荒げるとヒデの答えはこうだった。『走る理由が分からない。なぜ俺たちだけが走らなければならないのか？納得出来ない。コーチも一緒に走ってくれ。だったら俺も走る。』　ヒデの論理性を認めてコーチも共に罰走に参加しました。結局コーチは、20本でダウンし「罰」は終了。この時そのコーチは、いかに自分がダメなコーチかを痛感し、その後体罰は一切せず合理的な努力に向かわせる指導に改心したといいます。当時を振り返りそのコーチは言いました。『ヒデ少年は、ある意味問題児だったかもしれない。中2の「事件」のとき、私が、ふざけたことを言うなと殴りつけていたら、果たして中田英寿という個性は、世界に羽ばたくことができたのだろうか？そう思うと、時々ぞっとすることがあるのです。』

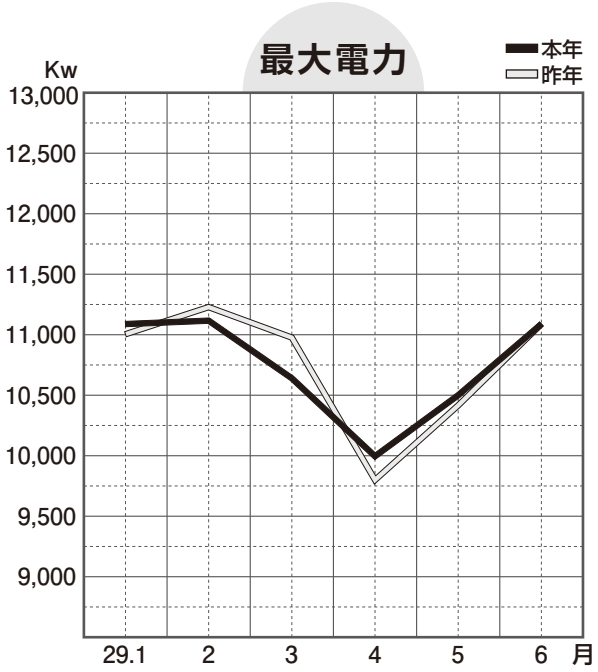
ドイツではＵ12の子供たちですら、試合前のミーティングで、コーチの指示に必ず説明を求めます。『なぜこのシステムで戦うのか？』『なぜこの戦術をとるのか？』　それに対してコーチは、システムや戦術の意図をきちんと説明する。そうやって納得させないと、ドイツの子供たちは決して動かない。殴って、叩いて、走らせて、どこかの国の指導者のように体罰で言うことを聞かせようとすることは決してありません。

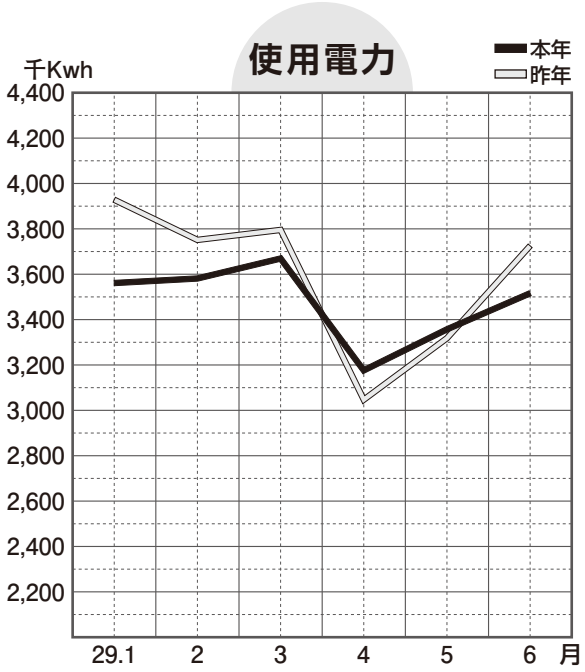
残念なのは体罰がなければ私も世界に羽ばたいていたかもしれないということです。

海坊主

お知らせ

平成29年6月分電力使用状況





電気は正しく使いましょう!!

電気の基礎　記号について Ⅱ

■表示図記号（前号の続き）

② 禁止

製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する。

接触禁止　火気の禁止 / 火気厳禁　分解禁止　ぬれ手で触れる事の禁止　風呂、シャワー室での使用禁止

③ 指示

製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する図記号

一般指示　アースせよ・アース線を接地せよ　プラグをコンセントから抜け

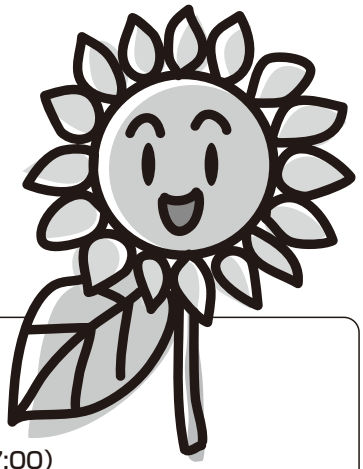
行事予定

2017 7 July

16 日	
17 月	『海の日』
18 火	
19 水	
20 木	月例会・役員会 組合事務局専従役職員研修会（工団連）
21 金	岐阜中金会経営者セミナー並びに懇親会
22 土	『組合休日』
23 日	
24 月	
25 火	
26 水	
27 木	各務原市産業祭実行委員会
28 金	
29 土	団地G 『組合休日』
30 日	
31 月	各務原ろばた会定時総会

2017 8 August

1 火	
2 水	
3 木	岐阜労働基準協会支部担当者会議
4 金	
5 土	『組合休日』
6 日	
7 月	
8 火	
9 水	
10 木	
11 金	『山の日』
12 土	『組合休日』
13 日	
14 月	『組合休日』
15 火	『組合休日』



■ 8月～10月の行事予定

8月22日火 月例会・役員会
9月9日土 ナゴヤドーム観戦ツアー
10月6日金～7土 組合員親睦旅行
8月26日土 団地G（第51期取り切り戦）
9月23日土 団地G（美濃関CC）
10月15日日 金属団地内停電（9:00～17:00）

■ 6月度金属団地ゴルフ会

6月24日土　岐阜カンツリー倶楽部
優勝　永田 保（マルエイ）　2位　森田吉久（テクノ共栄）　3位　林 宏守（中日鋼線）

G-MECCA

GIFU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

http://www.g-mecca.jp